

団体名	国立大学法人北海道大学大学院教育学研究院							
事業名	ESDキャンパスアジア・パシフィック・プログラム							
実施期間	2017年5月10日～7月28日							
場 所	北海道大学、市立札幌開成中等教育学校							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	大学スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	105	0	198	12	22	12	0	349名

<実施内容>

本事業は世界が直面する課題解決へ貢献できるグローバル人材の育成を目指して、「多様性・教育・持続可能性」を主題とし、北大教育学部生16名と市立札幌開成中等教育学校生30名、及び、北大在学中の世界各国留学生20名とアジア・パシフィック5有力大学(高麗大学校、ソウル国立大学校、北京師範大学、チュロンコン大学、サハリン国立大学)の教育学部生17名を対象としアイヌ民族・文化を題材とした全プログラムを通して英語による異文化理解・交流支援事業を実施した。本事業の内容は、春学期に開講した市立札幌開成中等教育学校と北海道大学教育学部におけるアクティブラーニングを活用した講義・演習と夏学期に実施した日高・平取町での野外研修を軸とした北大集中プログラムの2つの取り組みから構成されている。

春学期の高大連携合同講義・演習は、5月10日(水)から7月5日(水)の期間、毎週1回、市立札幌開成中等教育学校(5月10日、17日、7月5日)または、北海道大学教育学部(6月7日、14日、21日)において、北大教育学部生と市立札幌開成中等教育学校生、及び、北大在学中の世界各国留学生を対象として開講した。国連「持続可能な開発(SD)サミット」において提案された持続可能な未来を追及する17項目の開発目標(SDGs)をテーマに「多様性」、「異文化理解」、「多文化共生」を題材とした。

夏学期北大集中プログラムは、7月19日(水)から28日(金)の期間、北海道大学教育学部、日高・平取町、及び、国立日高青少年自然の家において、北大教育学部生と海外連携5大学教育学部生を対象として、「アイヌ先住民族・文化の学習と平取町における地域振興とアイヌ政策推進の取組」についての内容を軸に実施された。

<記録写真>



市立開成中等教育学校における
合同演習

北海道大学教育学部における合
同講義・演習

平取町におけるアイヌ先住民族・
文化の学習

<参加者からのコメント>

ヨンジ・ムン さん(韓国)/Ms Youngju Moon (Korea) ニキタ・キム さん (ロシア)/Mr Nikita Kim (Russia)

The ESD Program gave me great experience that I cannot get in anywhere. I can firmly say that ESD changes my thinking and life. The reason is that I decided where I should do in future after ESD. But if there's a one thing I feel little regrettable is that I did not talk with all of the students who are from various countries. Because of the strict schedules and other works, we just shared our ideas with just team members. I think we need some works or free times that all students could talk together.

I was satisfied with the whole process in all ways possible! This program was a remarkable moment in my life when I could once again understand that it was very important to build connections with people all around the world – thus the experience, knowledge and some other essential elements can be shared. It was a good opportunity to get to know culture of Japan a bit more. I hope that this program in the future will continue for sure, calling out for even more partners and students all around the world. Thank you once again for such experience.